

## 3年古典B 『車争ひ』をワイドショーで検証しよう（「源氏物語」）

### ○学習指導案

- 1 科目 古典B（4単位）
- 2 単元名（教材） 『車争ひ』をワイドショーで検証しよう（「源氏物語」）

#### 3 単元の目標

- (1) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。（読む能力）
- (3) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。（知識・理解）

#### 4 単元の指導計画（全4時間）

配当時間	学習活動の概要
1次（2時間）	「車争ひ」の内容を読解する。
2次（1時間） ※本時	本文を基に取材メモ、レポート原稿を作成する。（グループ活動）
3次（1時間）	①原稿を基に発表する。（グループ活動） ②六条御息所の対応、心情についての感想文を書く。 <span style="color: blue;">（パフォーマンス課題）</span>

#### 5 本時の展開

	学習活動(生徒)	指導上の留意点(教員)	評価の観点
導入	本時の学習内容を知る。	ワークシートを配付し、学習活動の目標を意識させる。	(1) 関心・意欲 ・態度 ・ペア活動の観察
展開	取材メモをつくる。（グループ活動） ・ワークシートを使い、ワイドショーの Reporter 役ができるよう、取材メモと原稿をつくる。 発表の練習をする。（グループ活動）	・本文を根拠とするよう指示する。 ・葵上の従者、御息所の従者、御息所の三人には、必ず取材させる。 ・場面の概要と御息所の心情が聞き手に伝わるよう意識させる。	(2) 読む能力 ・ワークシートの記述の確認
終結	本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容（発表）を知る。	・発表準備が整っていない場合は、それぞれで進めておくよう指示する。	

#### 6 評価手法

##### ・パフォーマンス課題

「六条御息所の対応、心情について感想を述べよう」（感想文、400字程度）

## ループリック

観点	評価基準	
登場人物の人物像や心情を理解する。(読む能力)	A	本文だけでなく、時代や人物の背景も根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。
	B	本文を根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。
	C	本文と、登場人物の心情とを結び付けることができない。

### ○授業実践の振り返り

昨年から、古典の解釈をグループで話し合う活動を体験している生徒たちであるため、活発なグループ討論が展開された。正妻の立場の葵上を、生き霊となって取り殺してしまった六条御息所について、生徒たちの印象は、初めは悪かった。しかし、本文の解釈をし、葵上、御息所それぞれの立場に立ってグループで検討を重ねるうちに、生徒たちの見方が変わっていった。

本文を基に取材メモ、レポート原稿を作成するという課題に取り組んだため、登場人物が実在する人のように思われ、感情移入がしやすくなったためと思われる。生徒たちは、平安時代に取材に行くような気持ちで、作品に向き合っていたようだ。このように、生徒たちがタイムワープをする感覚で古典を読むことができれば、より親しみが増すのではないかと思った。

また、話し合いの中では、「本文にこう書いてあるから…」「当時はこういう風習だったと資料集にあるから…」という発言も聞かれ、自分たちの印象だけで論じるのではなく、本文や参考資料などに根拠を求めていく姿勢が身に付いていることを感じた。

しかし、それらのまとめとして設定した発表の形式については、改善の必要があったと感じている。生徒たちが親しみやすいようにワイドショーの形式を指定したのだが、実は、生徒たちはテレビのワイドショーをあまり見たことがなく、イメージしにくかったようである。司会者・リポーター・コメンテーターなどの役割がよく分からず、グループ討議の結果を発表に反映させることが難しかった。より分かりやすい討論会の形式を生徒に示した上で、実践することが必要だと思った。

パフォーマンス課題として書いた感想文には、生徒たちが話し合いにより内容理解を深めた様子が表れているものが多く、手応えを感じた。しかし、中には、非常に中身の濃い討論を展開していたにもかかわらず、感想文にはそれが反映されない生徒もいた。討議のプロセスを振り返り、内容を取捨選択して文章に表現するということができないのである。生徒の学びの深まりは、文章に表現されることによって評価可能となる。思考の過程を振り返り、表現する力を身に付けさせたいと感じた。

以下に、A評価の生徒の感想文を示す。ループリックの「本文だけでなく、時代や人物の背景も根拠にして」という基準に関わる部分に下線を付してある。

### 【生徒作品例（A評価）】

「かかるやつれをそれと知られぬるが、いみじうねたき」からもわかるように、六条御息所は正妻である葵上よりも早く来て、でもしっかりと愛人であることはわきまえて、人目を忍んでそこにいた。御息所は人目を避けているから、絶対源氏にはバレないだろうと思っ**てはいるけれど、出し衣をしていたことから**、本当は自分だと気付いてくれるのではないかと、隠れていてもわかってくれるのではないかと、期待があったと思う。それとともに、気付いてくれなかったらどうしようという不安も持っていたと思う。そして、実際本文の「さらぬ顔など……おし消たるありさま、こよなう思さる」からわかるように、光源氏は御息所には気付かなかつた上に、さらに、他の女を少し見たりして**いて、葵上の前ではかっこよく通っていく**。そんな光源氏を見て、御息所は私が想像する以上につらかつたと思うし、本文にもあるように、葵上に圧倒される自分をすごくみじめに感じたと思う。普通だったら、車を壊され、なおかつ光源氏**に気付いてもらえないつらいことが続いたら、行かなければよかつたと後悔する**と思う。けれども、本文の最後にあるように、御息所は行つたこと自体は後悔していない。それがありのままの女心だ**と思つた**。それだけ真剣に光源氏のことを思つていたんだと**感じる**。